

地震保険の概要

1. 地震保険とは

- (1) 地震・噴火・津波を直接または間接の原因とする火災・損壊・埋没・流失による損害を補償
- (2) 法律（「地震保険に関する法律」）に基づいて、政府と民間の損害保険会社が共同で運営
- (3) 一定規模以上の支払保険金が生じた場合、保険金の一部を政府が負担（政府再保険）
- (4) 地震災害による被災者の生活の安定に寄与することが目的

2. 地震保険の必要性

- 火災保険では、地震による火災（延焼・拡大を含む）は補償されない。
【理由】地震リスクは、次の3点から通常の損害保険になじまない性質を有する。
①巨大損害の可能性、②発生時期・頻度の予測の困難性、③広域災害の可能性
⇒ 政府と民間の共同運営による「地震保険」が必要

3. 地震保険の誕生と改善

- 昭和39年 新潟地震発生（これを契機に地震保険創設への要望が高まる）
- 昭和41年 「地震保険に関する法律」制定、地震保険制度発足（全損のみ補償）
- 昭和55年 補償範囲の拡大（全損に加え、半損も補償）
- 平成3年 補償範囲の拡大（全損・半損に加え、一部損も補償）
- 平成8年 家財の補償内容の改善、契約金額の限度額引上げ
- 平成13年 保険料一部引下げ、建物の耐震性能に応じた割引制度導入

損保業界による普及に向けた活動

- (1) マスメディアを中心とした広報
- (2) 未契約者に対する「おすすめはがき」の出状
- (3) 普及啓発を目的としたシンポジウム開催（地方自治体との共催）
- (4) 地震保険料の所得控除制度の要望

4. 地震保険の内容

(1) 補償対象

居住用建物と生活用動産（家財）が対象

※ 工場、事務所専用の建物など住居として使用されない建物には、地震保険は契約できない。

(2) 支払対象の損害

地震・噴火・津波を直接または間接の原因とする火災・損壊・埋没・流失による損害を補償

(3) 契約方法、契約金額

- ① 火災保険とセットで契約
- ② 地震保険の契約金額は、火災保険の契約金額の30%～50%の範囲内で決める。ただし、建物は5,000万円、家財は1,000万円が限度額となる。

(4) 保険料と割引制度

建物の構造が木造か非木造（鉄筋コンクリート造・鉄骨造）かの2区分により、および都道府県別に定める危険度が1等地から4等地の4区分により、それぞれ異なる。

建築年割引：昭和56年6月1日以降に新築された建物 10%割引
耐震等級割引：住宅の耐震等級に応じて10～30%割引

保険料例（東京都：木造建物、10%割引）

| | 契約金額 | 保険料 |
|----|---------|---------|
| 建物 | 1,000万円 | 32,000円 |
| 家財 | 500万円 | 16,000円 |
| 合計 | 1,500万円 | 48,000円 |

(5) 保険金の支払

損害が建物・家財の時価の何割に達したかによって、「全損」、「半損」、「一部損」に区別される。「全損」の場合は契約金額の全額、半損の場合は契約金額の50%、一部損の場合は契約金額の5%が支払われる。

(6) 1回の地震等による総支払限度額

5兆円

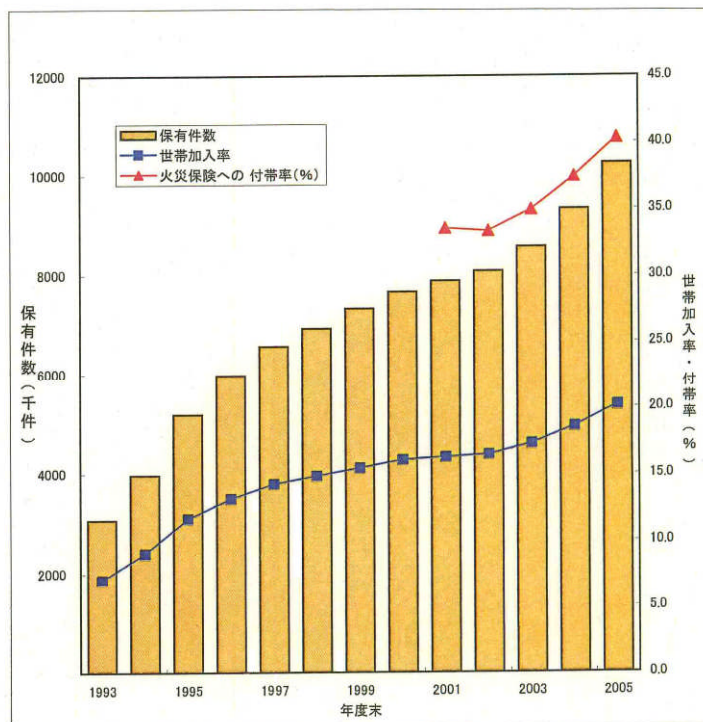
※ 関東大震災クラスの大地震が発生しても保険金の支払に支障がないよう設定されている。

地震再保険の概要

| 1. 政府再保険 | 地震保険は、次のような特徴をもつ地震災害による損害をカバーするため、政府が「再保険」という形で損害保険会社をバックアップすることによって成り立っている。 ① 1 災害による損害が保険会社の担保力を大幅に上回る巨額なものとなるおそれがある。 ② 災害の発生時期や発生頻度の予測が極めて困難なため大数の法則に乗りにくい。 | ・政府による再保険は「地震保険に関する法律」に基づいて実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-------------------------------|--------------------------------------|-----------|------|--|--|------------------------------|--------------------------------------|--|----------|---------------------|-------------------|----|------|-----|----|----|----|-----|-----|---|
| 2. 総支払限度額 | 地震保険は、一定規模以上の支払保険金が生じた場合、損害保険会社が支払う保険金の一部を政府が負担する再保険制度が導入されている。しかし、地震等によってどのような巨大損害が発生するか予測できないという地震災害の特異性から、1 回の地震等によって損害保険会社全社が支払う保険金には限度額（総支払限度額）が設けられており、現在 5 兆円と定められている。この総支払限度額は、関東大震災級の地震が発生しても保険金の支払いに支障のないように決定されている。 万一、算出された保険金の総額が総支払限度額を超える場合、契約ごとに支払われる保険金は次の算式により削減されることがある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> $\text{支払保険金} = \text{算出された保険金の総額} \times \frac{5 \text{ 兆円}}{\text{算出された保険金の総額}}$ </div> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 再保険スキーム | 損害保険会社と政府の間では、超過損害額再保険方式（1 回の地震等による支払が一定の額を超える場合、その超過部分についての責任を負担する方式）による再保険が結ばれている。損害保険会社と政府の責任分担は次のとおりである。 <div style="margin-top: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">0</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">750 億円</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">13,118 億円</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">5 兆円</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> 損保: 責任負担額 8,778.1 億円 1st+2nd layer 損保責任負担額 = 6,934 億円 </td> <td style="text-align: center;"> 50% 政府責任負担額 4 兆 1221.9 億円 </td> <td style="text-align: center;"> 5% 3rd layer 損保責任負担額 = 1,844.1 億円 </td> </tr> </table> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>750 億円以下</th> <th>750 億円超～13,118 億円以下</th> <th>13,118 億円超～5 兆円以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>損保</td> <td style="text-align: center;">100%</td> <td style="text-align: center;">50%</td> <td style="text-align: center;">5%</td> </tr> <tr> <td>政府</td> <td style="text-align: center;">0%</td> <td style="text-align: center;">50%</td> <td style="text-align: center;">95%</td> </tr> </tbody> </table> | 0 | 750 億円 | 13,118 億円 | 5 兆円 | 損保: 責任負担額 8,778.1 億円 1st+2nd layer 損保責任負担額 = 6,934 億円 | | 50% 政府責任負担額 4 兆 1221.9 億円 | 5% 3rd layer 損保責任負担額 = 1,844.1 億円 | | 750 億円以下 | 750 億円超～13,118 億円以下 | 13,118 億円超～5 兆円以下 | 損保 | 100% | 50% | 5% | 政府 | 0% | 50% | 95% | ・一事故総支払限度額 5 兆円 (損保 8,778.1 億円、政府 4 兆 1221.9 億円) |
| 0 | 750 億円 | 13,118 億円 | 5 兆円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 損保: 責任負担額 8,778.1 億円 1st+2nd layer 損保責任負担額 = 6,934 億円 | | 50% 政府責任負担額 4 兆 1221.9 億円 | 5% 3rd layer 損保責任負担額 = 1,844.1 億円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 750 億円以下 | 750 億円超～13,118 億円以下 | 13,118 億円超～5 兆円以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 損保 | 100% | 50% | 5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 政府 | 0% | 50% | 95% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

地震保険の契約件数・世帯加入率・付帯率の推移

| 年度 | 世帯数 | 契約件数 | 世帯加入率 (%) | 火災保険への付帯率 (%) |
|---------|------------|------------|-----------|---------------|
| 1993 年度 | 43,665,843 | 3,075,149 | 7.0 | |
| 1994 年度 | 44,235,735 | 3,968,835 | 9.0 | |
| 1995 年度 | 44,830,961 | 5,181,407 | 11.6 | |
| 1996 年度 | 45,498,173 | 5,975,416 | 13.1 | |
| 1997 年度 | 46,156,796 | 6,565,221 | 14.2 | |
| 1998 年度 | 46,811,712 | 6,923,684 | 14.8 | |
| 1999 年度 | 47,419,905 | 7,325,847 | 15.4 | |
| 2000 年度 | 48,015,251 | 7,664,480 | 16.0 | |
| 2001 年度 | 48,637,789 | 7,883,873 | 16.2 | 33.5 |
| 2002 年度 | 49,260,791 | 8,078,780 | 16.4 | 33.3 |
| 2003 年度 | 49,837,731 | 8,564,002 | 17.2 | 34.9 |
| 2004 年度 | 50,382,081 | 9,324,901 | 18.5 | 37.4 |
| 2005 年度 | 51,102,005 | 10,246,735 | 20.1 | 40.3 |



(注) 1. 契約件数は、各年度末の地震保険保有契約件数に基づく(証券単位)
 2. 世帯加入率は、年度末の地震保険契約件数を当該年度末の住民基本台帳に基づく世帯数で除したものである。
 3. 火災保険への付帯率は、当該年度中に契約された火災保険契約(住宅物件)に地震保険契約が付帯されている割合。
 (出典) 損害保険料率算出機構調べ